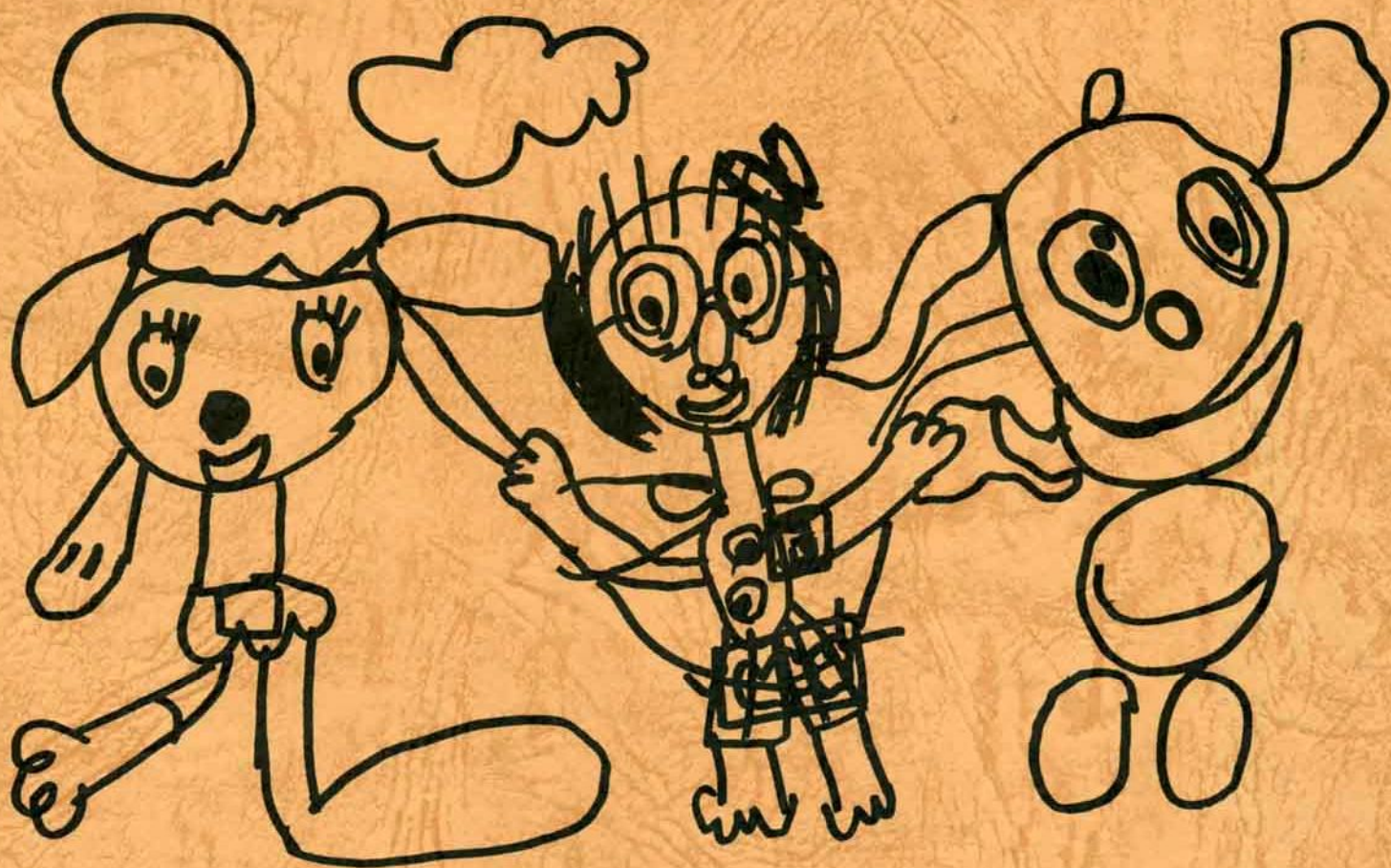


平成21年度

あそび

通巻55号



大阪市小学校特別支援教育担任者会

A君と指筆の出会い

- 教具の工夫で子どもの可能性を -

大阪市立日吉小学校 松崎としよ

はじめに

大阪市では学校教育法が改正され、特別支援教育が本格実施されたことを踏まえ、平成19年度より、これまでの「養護教育」の名称を「特別支援教育」とし、平成21年度からは「養護学級」も「特別支援学級」に改められた。今後は、障害のある子どもたちの教育的ニーズに応じた適切な指導、支援が一層求められる時代を迎えたといえる。

今回紹介する実践は、そんな時代の中、教具の工夫で子ども（A君）の可能性を伸ばすための模索を、学校現場、保護者、地域社会が連携して行った記録である。

本報告が、障害を持った児童にとどまらず、多くの人たちの表現活動や夢の実現に繋がることを願って、以下に経過を追って報告する。

1 A君について

A君は3年生男児である。障害の為、全身の筋力が弱く、車椅子を使用している。衣服の着脱はもちろん、食事にも介助が必要である。言語を発する事ができないので、表情や動作、「ア、ア」と音声等で、自分の意志を伝えようとする。しかし、自力で何事もやりたいという意志のはっきりした児童である。幼児期からトレーニングに通っているA園での筋力アップ運動や、補助具を使った訓練にも非常に集中した取り組みを見せている。本校でも月2回機能訓練を実施している。担当指導員K先生もA君の熱心さに感心されている。

文字は病院で制作してもらった補助具に鉛筆を差し込んで握って使用している。絵画表現は絵筆を縦に握って使用している為、自分が望む表現が出来ない現状であった。右写真はA君が絵筆を握った写真である。握んだ形で使用する為、思うような活動ができにくい状態であった。



絵筆を持つA君

2 A君と指筆との出会い

本実践を紹介したいと考えたのは、指筆に出会ったA君が、自分の思いを表現できることを喜び、夢中で表現活動を楽しむ姿に感動したからである。下の写真は、A君が指筆を装着して、線を描いているところである。

指筆について

指筆とは、墨運堂（奈良市にある墨の老舗）が平成21年に開発した、指に差し込んで描く筆である。「指で描く新しい発見」とあるように、指の延長として使用できるので、A君のように握る力の弱い場合や、握力の弱くなった高齢者などにも適した用具だと考える。その指筆を使ったA君の表現や活動の様子を追っていくことで、指筆と表現の関係を考える。



指筆で線描するA君

3 A君の活動の様子と作品の推移

① 絵筆を握ってかいた線

図画工作題材「線で遊ぼう」の授業で、絵筆を縦に握って、描いた線である。A君は、グーで握っているため、筆を動かすだけで精一杯の状況であった。線の太さや線の方角なども自分では調節しにくい。他の児童のように線描の面白さを楽しませてあげたいと感じた。



① 絵筆を握って描いた線 (4月10日)

② 指筆との初めての出会い

①と同じ授業の中で、初めて指筆を装着して描いた線である。くねくね線・ギザギザ線・ジグザグ線などが、自分の思いのままに表現できることを知った。A君は、非常にうれしそうな表情を見せて、どんどん線を描いていった。

①の線と比べると線に変化が生まれる等、大きな違いがわかる。数秒で線は描けていった。



② 初めて指筆で描いた線(4月10日)

③ 指筆に墨をつけて表現

①と同じ時間の中での実践。指筆の使い心地の良さを体感したA君は、もっと描きたいと催促した。そこで今度は、指筆に墨をつけた。A君は、のびの良い墨の感触を味わいながら、指筆を楽しんだ。授業終了のチャイムがなっても、続けて活動したが、何度も指筆を指さして、気に入ったことを意志表示した。その様子から、次回は筆を立てて使用することや、筆先を使って線の太さをコントロールする方法を指導したいと思った。



③ 指筆で初めて描いた墨の線 (4月10日)

④ 題材「グルグルかくかく」の1次での表現

渦巻き線・○・△・かすれた線等、多様な線を描くことができた。支援として「指筆を立てて使用する」「筆先で描く」の2点である。この場面でも多くの学級の児童がA君の周りに集まり活動を見守っていた。色も使い、重なった部分が混色したことにも気づき、指さして皆に知らせていた。皆の応援はA君のパワーの源だ！表情は輝き、素晴らしい笑顔で得意げである。表情を実際に見てもらえないのが残念でならない。



④ 指筆で描いた多様な線 (4月13日)

⑤ 題材「グルグルかくかく」の2次での表現

本時は特に線の太さに注目させた。筆先の使い方がうまくなり、かなり細い線や、長い線を描くことができるようになった。点描を教えると、興味を示し、点を沢山並べる活動を楽しんだ。細かさが加わっている。筆をグーで握る状態では出来ない活動である。絵筆を握った状態では、太い線は描けるが、右の写真のような細い線や、点々等を描くことはできない。指筆だと、腕を上を持ち上げるのも楽にできるため、A君は細い線が描けることを非常に楽しんだ。



⑤指筆で描いた太さの違う線（4月20日）

⑥ 題材「墨と絵の具で遊ぼう」での表現

秋になり、指筆にもすっかりなれたのを見て、書道にも取り組ませたいと考えた。まずは、墨と絵の具を使った表現を楽しんだ。線の太さや、指筆を持ち上げて筆先で描くと細い線になることは、完全に理解している。少しひじを支えることもあるが、A君は手を添えることをあまり喜ばない。何でも一人で！という意識が強い子どもである。黒と赤のコントラストも気に入ったようであった。丸の中を赤色く塗って、喜んでいた。



⑥墨と絵の具で線描を楽しむ(10月3日)

⑦ 書道で「大」を書く

書道で大の字を書くことにチャレンジした。「参観日にはりだして、みんなに見てもらおうね」というと、ニコニコして人差し指を見せた。書道は3年生で初めて習うので、どの子も興味一杯である。筆先にたっぷり墨を含ませて、強くおさえることで太い線がかける。太い線は、A君は楽に表現できる。ひじを持ち上げる必要のある細い線のほうが難しい。初めての「大」の字に大満足の様子だった。その後もみんなと同じように書道に取り組めた。これも指筆によって、力のコントロールが可能になった成果だと考える。教具の開発によって、表現が可能となり、喜びが増すことは素晴らしいことだと思った。



⑦書道で「大」を書く（10月18日）

⑧ 「障害のある子どもに学ぶ図工展」へ出品

10月には、特別支援学級で育てたサツマイモを描いた。これは A君が苗を植え、収穫したサツマイモである。本当にうれしそうな表情で大きく描き、葉は、絵の具をつけてスタンプングした。指の延長の感覚が得られるからこそ生まれる活動であったと感じた。見ていた友だちも、「上手やね。大きくかけて、おいしそうやね！」と声がけする姿が見られた。

お気に入りのこの作品は「障害のある子どもに学ぶ図工展」へ出品し、多くの人に見ていただいた。Aくんにとって、きっと自信に繋がり、表現する事で、人に伝える醍醐味を味わった事と思う。思いを絵に表す支援を、指筆がしてくれた事を強く感じた。



⑧ 育てたサツマイモを描く(10月21日)

⑧ 書き初めにチャレンジ

年が改まった。細長い半紙に書き初めの課題が出た。みんなと同じように書き初めにチャレンジすることにした。冬休みを挟み、久しぶりの指筆であったが、押さえたり、筆先で書いたりする感覚は、練習している内に、すぐによみがえった。短い休みであったが、なんだか背丈も大きくなり、体つきがしっかりしたのに驚かされた。筆圧も強くなり、元気な「お正月」が書けた。お習字って楽しいね！



⑧ 指筆で書き初め
(1月19日)

4 まとめ

指筆との出会いは、A君はもちろん、私自身にも大きな変化をもたらした。ハンディを補う用具との出会いで、今まで諦めていた活動ができるようになる。その結果、表現の喜びを体感し、その充足感がさらなる意欲を喚起する様子を、A君の笑顔を通して目の当たりにした。そしてそれは、もっとこんな体験をさせてあげたいという指導者の夢にも繋がった。指筆がA君のとびっきりの笑顔を生み、それが明日の夢を作りだしてゆく。

本実践は、保護者の支援並びに教材開発等、社会の支援があったことが大きいと考える。指筆がA君に留まらず、筆を持つことが困難な児童の助けになればと願っている。また今後とも、このような教材開発を望みたい。

参考資料 右の写真は人差し指に指筆を装着している所。

指筆大(840円) 指筆中(735円) 指筆小(630円)

問合わせ先・・・墨運堂 Tel (0742-43-0600)



指を差し込む部分



